

課題（テーマ）

中高年健康診断の多様化

内容

元気だった人が寝たきり老人になる要因のひとつに、骨折があります。特に大腿骨骨折は大きな要因です。この原因の一つに骨密度の低下があります。

年をとれば大なり小なり、骨密度が低下し、骨粗鬆症になってきます。この骨密度の低下は、ある程度予防できると思われれます。それ故、骨密度の測定を健康診断の項目に追加し、中年者には希望で、高齢者には義務付けで受診させることを提案します。

この結果に基づき、骨密度改善の食事指導、運動指導等を行い、老人の骨折を予防できるのではと考えます。

また、寝たきりになることを防ぐため、骨折した老人の機能回復のためのリハビリを助成することも提案したいと思えます。特に女性は出産があり、骨粗鬆症になる方が多いので、重点的に骨密度の定期測定をされればと思えます。

もう一つの予防策として、健康診断の際に、健康・体力作り相談の案内（パンフレットの配布、医師による提案等）をする等、健康診断を実施してくださる病院・医院等での受診者に対するアピールを積極的に行うことにより、効果的な推進ができるのではと考えます。

制度はできているが、それを効果的に進めるための方法がいま一つと思われるので、多くの方が受診される健康診断を利用して、医師から話をしてもらうことで、効果が大きくなると思えます。

課題（テーマ）

小・中学生と高齢者との交流

内容

小中学生の福祉授業の一環として、高齢者とのふれあいの場を作り、高齢者の知識や経験を知ると共に、高齢者へのいたわりの気持ち、優しさ等を育み、高齢者にとっては、孫の代にあたる小中学生との交流により、豊かな気持ちを持ってもらう。

また、実際に高齢者に対しての福祉活動を体験してもらうことにより、福祉事業の大切さ、大変さを認識してもらい、将来福祉事業に携わろうという気持ちを持つ子ども達を育てる。

具体的には、小中学生に年に数回の授業を組み込み、福祉活動に興味を持つ小中学生のために、例えば学校にクラブを作り、その活動のバックアップをしていく。

高校入試に、この活動に参加することにより、ある程度優遇される等の対応をとることにより、参加を促すことも考えても良いのではと思います。

課題（テーマ）

老々介護の実態調査と問題点の把握および支援

内容

寿命が長くなり、かつ核家族化により、老夫婦2人、高齢の親と高齢の子との2人暮らしで、どちらかが介護が必要な状況にあるということは、現在ではそれほど珍しいことではなくなっているのが現状と思われます。

更に、老人ホーム等への入所は益々困難な状況にあり、寝たきりの夫を、老妻が自宅で介護している、あるいは寝たきりの親を、高齢の子が介護しているという状況は、今後も増加していくのではと思われます。

現時点でも、介護疲れから、寝たきりの相手を殺害し、自分も自殺するという不幸な事態が、ニュースになるのも目立つようになってきています。若いときでも介護は重労働であり、いくら介護保険制度があるといっても、介護保険には限界があり、ほとんどは同居の家族に頼らざるを得ないというのが現状だと思います。

現在の老人ホームの数では、とても入所を希望されている皆さんを満足させられるものではないと思います。

自分達がそのような状態に陥った時を考えると、ゾッとせざるを得ません。老人の2人暮らしでなくても、寝たきりの高齢者を抱えて苦勞されている高齢者家族は更に多いと思われます。これらの実態と問題点の把握を行い、適切な支援体制を確立することが今後益々必要になってくると考えられます。

健康な高齢者であっても、介護の必要な高齢者を抱えていると、元気な高齢者になるのは困難で、介護の必要な高齢者を見送ったら、今度は自分がと思うと、とても明るく暮らしてはいけないと思います。

課題（テーマ）

ひとり暮らし高齢者への支援

内容

第1回懇談会で配布された資料5「区勢概要（抄）」中の116ページ～に記載の「4. 高齢者が暮らしやすいまちをつくる」の項目には、“高齢者の集合住宅”、“総合相談”、“地域支え合いネットワークの構築”等の施策が述べられている。

しかし例えば、住宅では昨年の区報の募集でもわずか2戸であり、総合相談でも相談を受けるといった受動的な表現でその施策が示されている。

この種の問題では、当人からの相談を待つのではなく、民生委員の協力による、より積極的な行政の施策により高齢者を助けることの必要性を感じる。

要は、当人からの相談を待つのではなく、民生委員との協力によるより能動的な行政の施策（民生委員等の自宅訪問）により高齢者を助けることの必要性を感じる。（拙宅の隣の民間アパートに1人暮らしの老女がいるので、特に感じる）

課題（テーマ）

高齢者の社会参加支援

～元気高齢者のキャリア登録制度および活用仕組みの創出～

内容

高齢者が蓄積した技能、知識、経験などを地域で積極的に活用し、本人の生きがい、地域の活性化に役立てるため、区の人材バンクに任意登録できる制度をつくる。

登録者側と行政部署で推進委員会をつくり、協働して活用する。

課題（テーマ）

ひとりぐらし高齢者への支援
～地域における孤立化の防止～

内容

地域包括支援センターに地域見守りチームをつくる。

民生委員、福祉専門カウンセラー、補助推進員（元気高齢者）などで構成する。

※うつ病対策に重点を置きたいので、できれば家族の中で孤立している高齢者を含めたい。

課題（テーマ）

在宅医療・看護・介護の支援
～継続的効果的リハビリによる自立支援～

内容

高齢者の脳梗塞、骨粗鬆症、骨折などの原因による寝たきりや認知症を予防するため、地域で自立を支援する体制をつくる。

地域包括支援センターに専門の機動的リハビリ支援チームをつくる。

医師・理学療法士・看護師・栄養士などで編成し、適時的に相談や指導を実施する。

課題（テーマ）

高齢者二人暮らしの支援のあり方

内容

最近、高齢者の配偶者、高齢者のお子さん達が、高齢者のお世話を（お年寄りが車椅子を押している姿をよく見かけます）するケースが多く、一方でそのお世話を放棄し、それに伴う多くの事件をテレビや新聞の報道で見聞きしております。

高齢者のご夫婦は、なるべく周囲に迷惑を掛けたくないとの思いから、ぎりぎりまで我慢をするケースが多いのではないかと思います。

ひとり暮らしの高齢者の支援はもちろんですが、高齢者のみの世帯を今まで以上に見直していく必要があるのではないかと思います。

課題（テーマ）

高齢者のひとり暮らし同士のトラブルについて

内容

（都営住宅の隣人同士の仲裁で訪問した際、どちらの味方もできずに対応に困難な事例）

騒ぎの発端は判明しないが、一人の老人が何時もかかわっている。近隣の方は、被害を受けている方の応援で、更に嫌がらせを繰り返す。民生委員のみならずかかわりたくないと思うが、近隣の方の迷惑を考えて出向いている。

対処が困難な方の処置方法は？

課題（テーマ）

障害者（高齢者）の支援について

内容

（一人暮らし障害者で、日常生活は施設の方が出張して世話をしている）

以前、消防署の救急車で搬送の経験があり、隣人から民生委員の支援をお願いしたら
とのことで、私が玄関の鍵を預かり、電話で連絡することになりました。

夜間、電話があり訪問すると、救急車が来ました。本人は誤って緊急通報をしたとい
うことですが、今後のかかわり方の難しさを実感した。

課題（テーマ）

ひとり暮らし高齢者への支援

内容

ひとり暮らしの人が約 2 万人（一人で外出できる人が 8 割）と言われているが、施設の利用者が少ないので、増加に努める。

そして、高齢者福祉電話（電話相談員）、一声訪問の活用の広報。

課題（テーマ）

高齢者施設のあり方

内容

施設を訪ねてみて、利用者の固定化した雰囲気、そして利用者の多い場所、少ない場所があり、施設の運営の在り方と感じられ、その場所に足を運びたくなる工夫を考える。

課題（テーマ）

高齢者の健康・体力の保持、増進支援

内容

- 1 区から検討課題として提案されているテーマは「高齢者の社会参加支援」以外はいずれも弱者対策の範疇に入るものです。8割と言われている元気な高齢者の健康を保持し、体力を増進するための自助努力を支援する施策があってしかるべきと思う。
- 2 高齢者の社会参加を促進することは、健康づくりにつながることは確かなことです。しかしそれは結果であって、本来は人と人とのつながり、自己実現など、心の問題であります。高齢者の健康や体力を保持し増進するための支援策は、大きなテーマとして議論されるべきと思います。

課題（テーマ）

高齢者の社会参加支援および登録制度等の活用仕組みの創出

内容

前回の会議で発言させていただいたテーマなのですが、団塊の世代が高齢者の仲間に入ることになり、また平均寿命が80歳代という時代、元気に活躍できるであろう時期が平均20年近くあるのではと思われる。

今までのキャリアだけでなく、これから興味あるものに取り組んで、その道のキャリアにもなれる可能性もあると思う。高齢者のためだけでなく、仕事を続ける母親の支援など、若い方たちにも役立つ人材と成り得ると考えられるのでは。ということでニーズに対しての養成なども考慮されるのではないだろうか。